



## 「深い学び」につながるアクティブ・ラーニングの実践

### 研究授業大会における取り組み

本校ではアクティブ・ラーニングにより生徒の「深い学び」を促すことを意識して、研究授業大会を年に2回行っています。ここでは、学習意欲を高める「問い立て」の工夫が行われ、また、問題発見から解決に至る探究の要素の充実が常に各教科で目指されています。また、評価方法に関しても、思考力を問う考查問題の作成を心がけています。

### I 研究授業の指導案に見えるアクティブ・ラーニングの具体的取り組み

【第3学年実施 生物】

・具体的な動物の行動を例に挙げ、動画等で実際に観察をし、そこから行動の仕組みを紐解いていけるように質問したり、特に定位行動に関して、生徒自身が同様の行動を実際に行える場を設定したりする。

(例1) 発問：どのような仕組みで音がする方向を予想できるのか。

手だて：生徒に目をつぶらせ、座らせた状態で後方から声をかけ、どこから聞こえてきたかを考えさせる。

(例2) 発問：8の字ダンスはどのようにして餌場の情報を伝えているか。

手だて①：8の字ダンスの動画を見せる。

手だて②：複数の多様な条件の餌場に対してミツバチがどのような8の字ダンスを行うか、図と表で示す。

研究授業大会 理科(生物)学習指導案より

### II 研究授業協議会の実施

本校では研究授業大会を次のように行い、ワークショップ型研究授業協議会を実施しています。手だては以下のとおりです。

- ① 授業者が本年度のテーマ(目標)に基づいた本時のねらいや工夫・授業仮説を設定し、授業以前に情報公開を行う。＝「私の授業の見てほしいポイント」を提示する。
- ② 参観者は「見てほしいポイント」に沿って付箋に気づいたこと・考えたことを記入し、参観シートに付箋を貼る。  
※付箋の活用方法：教師の指示・発問・手だて等に関して1項目につき1枚  
(青：よかった点 / 黄：改善点・疑問点)
- ③ 研究協議会において教科ごとに授業分析。  
授業者自評→参観者が付箋を紹介し学習指導案の拡大紙に貼り付ける。  
よく工夫がなされていた点・改善点ともに全体で協議。
- ④ 学習指導案の拡大紙(付箋付)を職員室等の、教職員の目につく場所に掲示。



この手だてにより、授業実施者だけではなく、全教員の指導力向上とアクティブ・ラーニングの質の向上、効果の最大化を目指している。

### 教科横断型授業ー英語イマージョン教育ー

昨年度から、県の「グローバル人材育成強化校」に指定され、中高で英語イマージョン教育の推進に取り組んでいます。外国語(英語)以外の授業において、EAS(English Activity Supporter)とチームティーチングを行い、生徒が母語で獲得した教科科目の知識・技能を活用して新しい内容について英語で理解・表現します。

イマージョン授業実施教科(科目)…国語、地理歴史(世界史)、公民(現代社会)、理科(生物)、保健体育、音楽、総合的な学習の時間(課題探究) 中学国語、中学理科、中学社会

### 研究授業指導案に見えるイマージョン教育の取り組み

【第2学年実施 現代文B】

『ころ』『山月記』『羅生門』の紹介文を日本語・英文の両方で作成し、作品についてわかりやすく伝える工夫をする。二言語を用いることでより深い理解を促し、各言語の特徴にも気づかせる。



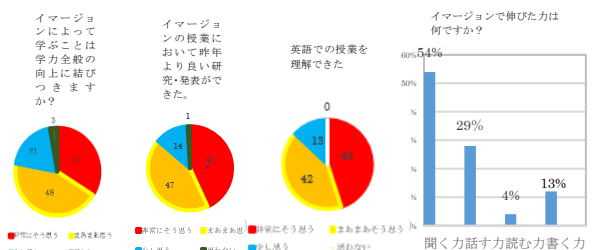
2年生 現代文



グループディスカッション



英語で意見をまとめる  
英語で発表



## 研究授業での「アクティブ・ラーニング」の広がり

年間2回実施している研究授業では、年々「課題発見・解決型」の授業が増え、授業改善が着実に進んでいます。他教科の授業を参観することでアクティブ・ラーニングの手法や新たな指導法が教員間で積極的に共有されています。